

第73期 第2四半期株主通信

2018年4月1日から2018年9月30日まで

ロジスティクスに最適解を
大石産業株式会社

証券コード：3943

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社は2018年9月30日をもって、第73期(2018年4月1日から2019年3月31日まで)事業年度の第2四半期を終了いたしましたので、ここに事業の概況をご報告申し上げます。

事業の経過およびその成果

当期間におけるわが国経済は、個人消費や設備投資環境の改善から、緩やかな回復基調となりました。一方、海外経済では、米国による保護主義的貿易政策の台頭が世界の貿易収縮の懸念を増大させ、殊に米中貿易戦争ともいうべき状態がわが国経済に直接的、間接的にも大きく影響を及ぼすリスクが増大している状況であります。

このような経営環境のもと、当社グループは引き続き「T P S (トータル・パッケージング・ソリューション) 提案」により顧客満足を徹底的に追求するとともに、全社をあげてイノベーション活動に取り組み、業績向上に努めてまいりました。

その結果、売上高は、主にフィルム製品、樹脂成型品および段ボール製品の増加により、92億87百万円(前年同期比2.8%増)となりました。利益については、国際的な原油および古紙市況の大幅上昇により当社全製品の原料および燃料コストが急上



代表取締役社長
大久保 則夫

昇したことを受け、販売価格修正の活動を推進したものの転嫁が一部にとどまり、合わせ生産性向上や固定費削減を推進してまいりましたが、コスト上昇分を吸収することができず、営業利益は4億3百万円(前年同期比41.2%減)、経常利益は4億94百万円(前年同期比36.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億15百万円(前年同期比44.8%減)となりました。

なお、配当金額につきましては、中間配当金額は1株につき27円、2019年3月期の期末配当につきましても同27円を予想しております。

今期の見通し

2019年3月期の業績予測につきましては以下のとおりです。

売 上 高	19,800	百万円 (前期比 7.8%増)
営 業 利 益	1,150	百万円 (前期比 6.5%増)
経 常 利 益	1,350	百万円 (前期比 8.0%増)
当期純利益	950	百万円 (前期比 4.8%増)

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

CONTENTS

TOP MESSAGE	1
連結業績ハイライト	3
主要連結財務データ	4
セグメント情報	5
TOPICS	7
株式の概況	9
会社の概況	10

売上高 **9,287**百万円 (前年同期比 2.8%増)

営業利益 **403**百万円 (前年同期比 41.2%減)

経常利益 **494**百万円 (前年同期比 36.8%減)

四半期純利益 **315**百万円 (前年同期比 44.8%減)

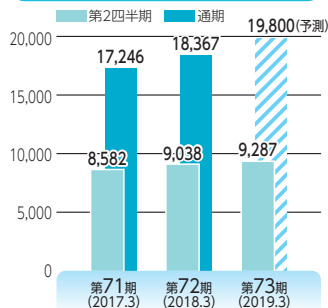
第2四半期決算のポイント

売上高については、主にフィルム製品、樹脂成型品および段ボール製品の増加により増収となりました。

利益については、国際的な原油および古紙市況の大幅上昇により当社全製品の原料および燃料コストが急上昇したことを受け、販売価格修正の活動を推進したものの転嫁が一部にとどまり、合わせ生産性向上や固定費削減を推進してまいりましたが、コスト上昇分を吸収することができず、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益、いずれも減益となりました。

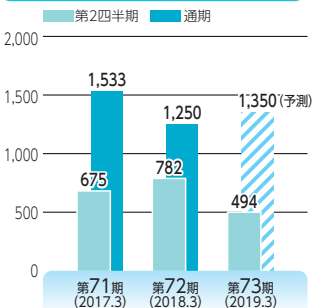
売上高

(百万円)



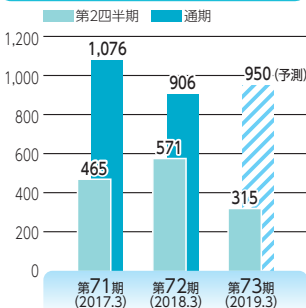
経常利益

(百万円)



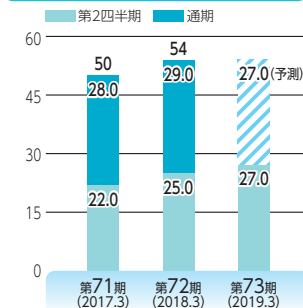
四半期純利益

(百万円)



1株当たり配当金

(円)



(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っております。第71期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり配当金を算定しております。

科 目	第71期第2四半期 (2016.9)	第72期第2四半期 (2017.9)	第73期第2四半期 (2018.9)
売上高 (百万円)	8,582	9,038	9,287
営業利益 (百万円)	642	685	403
経常利益 (百万円)	675	782	494
四半期純利益 (百万円)	465	571	315
総資産 (百万円)	18,545	20,858	21,404
純資産 (百万円)	11,881	13,114	13,705
1株当たり四半期純利益 (円)	116.05	142.51	78.64

(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っております。第71期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

緩衝機能材事業

売上高 **40億16** 百万円

営業の概況

パルプモールド部門は、工業用と青果物用トレーの分野で一部増加したものの、鶏卵分野では卵価下落や夏場の酷暑の影響もあり減少となり、パルプモールド部門の売上高は23億91百万円(前年同期比4.8%減)となりました。

段ボール部門は、工業分野は順調に推移したものの、農業分野は天候不順の影響もあり数量減となりました。一方、昨年夏からの段ボール原紙価格上昇分を販売価格に一部転嫁できたことで、売上高は14億63百万円(前年同期比5.3%増)と増収となりました。

成型部門は、樹脂成型品の生産、販売を開始したことで、売上高は従来の宙吊式包装容器(ゆりかご)と合わせ1億61百万円(前年同期比601.5%増)となりました。

その結果、当事業の売上高は、40億16百万円(前年同期比2.3%増)となりましたが、原料および燃料費の増加や樹脂成型品の立ち上げによる初期費用等でセグメント利益は3億3百万円(前年同期比23.8%減)となりました。

●製品紹介

[パルプモールド]

ドリンクキャリア

持ち帰り用のドリンクホルダーとしてパルプモールドが利用されています。全サイズのドリンクが固定可能で数量も1個まで分割使用できます。安定性、吸水性に優れています。



[段ボール]

段ボールとパルプモールドのセット品

環境に配慮したパルプモールド緩衝材を使用し、緩衝性能を最大限に引き出すパッケージのご提案を行っています。



包装機能材事業

売上高 **50億24** 百万円

営業の概況

フィルム部門は、食品容器用フィルムが国内の中食需要増の影響もあり好調であったこと、また、積極的な機能性フィルムの拡販が好調で増収となり、フィルム部門の売上高は20億74百万円(前年同期比7.1%増)となりました。

重包装袋部門は、国内は製粉・合成樹脂向けが好調で増収でしたが、海外は拡販計画の遅れの影響もあり減収となった結果、重包装袋部門の売上高は29億50百万円(前年同期比1.3%減)となりました。

その結果、当事業の売上高は50億24百万円(前年同期比2.0%増)となりましたが、重包装袋部門の海外における減収および原料価格急上昇の影響が大きく、セグメント利益は4億90百万円(前年同期比28.4%減)となりました。

●製品紹介

[フィルム]

カップ麺用フィルム

カップ麺容器の美粧化、強度向上のためのラミネートフィルム(熱ラミネート、押出ラミネート)として活用されています。



[重包装袋]

合成樹脂・肥料用袋

主に合成樹脂、肥料等の用途で使用されています。ポリエチレン製フィルムで、お客様のご要望にあわせて単層・多層フィルムのご提案を行っています。



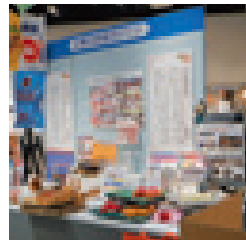
1 広報活動～くらしを包むパッケージ展に出展及びパルプモウルトの啓蒙活動～

北九州イノベーションギャラリーの春の企画展「くらしを包むパッケージ展」に当社製品を出展しました。この企画展では、私たちの暮らしに無くてはならない「包装」にスポットをあて、包装の歴史や技術が紹介されました。

当社の製品や取り組みは「企業の技術力ゾーン」で展示され、展示以外でも段ボールシートの提供等を行い、バスツアーによる工場見学の受け入れも行いました。

また、移動式リサイクル工場「アルエコ」によるパルプモウルトの啓蒙活動を昨年度より実施しておりますが、今期もお客様と共同で夏休みのイベントとして、パルプモウルト学習会&パルプモウルトパック工作のイベントを開催しました。パルプモウルトの3R（リユース、リデュース、リサイクル）への取り組みを確認しながら、親子で一緒にパルプモウルトパックの工作を行い、交流を深めました。

今後も地域との交流を深め、積極的な広報活動を行っていきます。



くらしを包むパッケージ展



「アルエコ」によるパルプモウルト学習会

2 設備投資 鞍手工場～食品トレーの生産開始～

2018年6月、鞍手工場に食品トレーの生産設備を導入し、稼働開始しました。

近年、核家族化、個食化が進んだことにより、食事スタイルが多様化し、「中食(なかしょく)」の需要が増えています。

当社はこれまで食品トレー用のPSフィルムを製造してきましたが、新たに食品トレーの製造も行うことにより、さらなる技術力の向上を図ることができます。



今後も時代のニーズにマッチした取り組みを行い、業績向上に努めていきます。

3 2018日本パッケージングコンテストに入賞

公益社団法人日本包装技術協会主催の「2018日本パッケージングコンテスト」において、開発品「パルピー 10H 2P用手提げ燻製BOX」が輸送包装部門賞を受賞いたしました。

当製品は10個入り卵、2パックを安全に運ぶことができる手提げ箱で、箱は燻製BOXとして再利用できる製品です。

当社は2015年：ゆりかごCタイプ、鋳鉄管用キャップ、2016年：トマトLsトレー、2017年：折りたたみ携帯用バックインボックス「たたむくん」に続き、4年連続での入賞となりました。



今後も継続して製品開発に取り組み、お客様満足の向上に努めていきます。

●株式の状況 (2018年9月30日現在)

(1) 発行済株式の総数 4,664,000株 (自己株式含む)

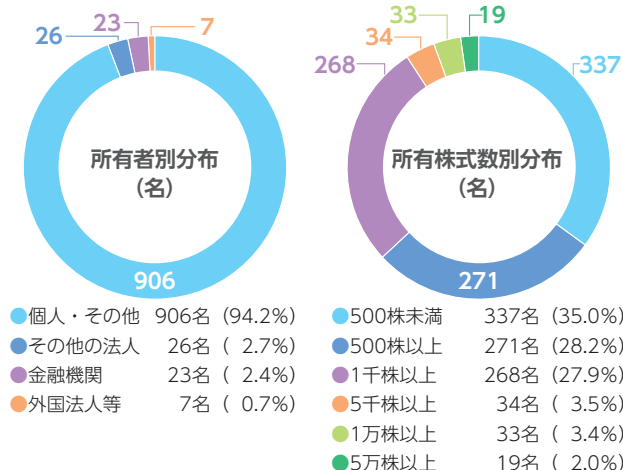
(2) 株主数 962名

(3) 大株主

株主名	持株数	持株比率
王子ホールディングス株式会社	381千株	9.29%
OSK社員持株会	269千株	6.55%
三井住友海上火災保険株式会社	219千株	5.34%
株式会社西日本シティ銀行	189千株	4.61%
株式会社福岡銀行	186千株	4.55%
株式会社北九州銀行	175千株	4.28%
中村泰子	154千株	3.77%
伊藤忠紙パルプ株式会社	154千株	3.76%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	107千株	2.62%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	99千株	2.41%

(注) 持株比率は自己株式 (557千株) を控除して計算しております。

(4) 株式分布状況



●会社の概要 (2018年9月30日現在)

商 号	大石産業株式会社 OHISHI SANGYO CO.,LTD.
本 社 所 在 地	北九州市八幡東区桃園二丁目7番1号
設 立	1947年2月3日
資 本 金	4億6,640万円
支 店	東日本／東京／関西／北九州／九州／シンガポール
工 場	八戸、茨城、鞍手、小倉、直方
従 業 員 数	334名(グループ518名)

連結子会社

株式会社アクシス	ENCORE LAMI SDN. BHD.
CORE PAX(M) SDN. BHD.	

取締役

代 表 取 締 役 社 長	大 久 保 則 夫
専 務 取 締 役	久 継 雅 夫
常 務 取 締 役	田 中 英 雄
取 締 役	高 田 圭 二
取 締 役	山 口 博 章
取締役 監査等委員(社外)	宮 地 郁 夫
取締役 監査等委員(社外)	長 門 博 之
取締役 監査等委員(社外)	川 本 惣 一
取締役 監査等委員(社外)	福 地 昌 能

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
公告掲載方法	電子公告制度により行います。 公告掲載URL http://www.osk.co.jp/ (ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います)
上場証券取引所	福岡
株主名簿管理人および 特別口座管理機関	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	福岡市中央区天神二丁目14番2号 日本証券代行株式会社 福岡支店
郵便物送付先 お問合せ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 電話 ☎0120-707-843

各種手続のお申出先

- 未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等、証券会社をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。
証券会社をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行へお申出ください。

特別口座でのお手続用紙のご請求は、インターネットでもお受け付けいたしております。

ホームページアドレス

<https://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html>

(一部の用紙は、お手持ちのプリンタで印刷できます。)

大石産業株式会社

〒805-0068 北九州市八幡東区桃園二丁目7番1号
TEL.093-661-6511 FAX.093-661-1641
<http://www.osk.co.jp/>